

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和4年(2022年) 2月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2022 3 通算202号
月号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

緩和ケアだより……………	P1~2
栄養サポート(NST)研修会について……	P3
退任挨拶……………	P3
「友達の輪~Relayトーク 第16弾」……………	P4

緩和ケアだより

緩和ケア科部長 **あべ 英治**



皆様にはいつもお世話になっております。今回は「緩和ケアだより」として、わたしの方で原稿を準備させていただきました。お時間があるときにお付き合いください。

1. 緩和ケア科として再出発

昨年(2021年)11月に当センターの電子カルテが富士通からソフトウェア・サービス(SSI)に変わりました。その際に診療科を「麻酔科」から「緩和ケア科」に変更していただきました。「麻酔科」か「緩和ケア科」か、こだわりはあまりないのですが、各種臨床統計を出す時に「緩和ケア科」とした方が便利なので、変更となりました。今後緩和ケア領域で当センターに於いて働いていただける医師にとって、緩和ケア科という診療科名を設定したことはよいことだと考えます。診療科は変わりましたが個人的にはやることは変わりなく、「麻酔科」での知識・経験を基盤とし、各診療科の先生方に個々の患者様に必要なことを教えていただきながら、自分なりの“緩和ケア”を構築し、患者様・ご家族・そして当センターに提供していくことをこれからも続けていこうと改めて思いました。今後ともご指導ならびに患者様のご紹介どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 緩和ケア病棟

当センターの緩和ケア病棟は、2001年7月に10床でスタートし、2012年4月に14床、2013年4月に16床、2014年4月に14床、と病床数変更しながら、現在に至ります。わたしは、2010年4月に赴任し、翌

2011年4月から1年間は熊本大学病院で学び、2012年4月から現在に至るまで当緩和ケア病棟で臨床に従事しています。このたびの病院建て替え計画で、緩和ケア病棟は新病院への移転対象とならず、現在の新館4階で今後も運営していくことが決定しています。熊本市内に新設されている他の緩和ケア病棟と比較してハード面の競争力は後塵を拝します。この条件で最大限のパフォーマンスをコツコツと積み重ね、患者様・ご家族・そして先生方に選んでいただける緩和ケア病棟になれるよう努力していこうと考えています。患者様にとって何が最善なのか、ご家族にとって何が最善なのか、各診療科の先生と病棟師長をはじめとした病棟スタッフそして多職種・他部門と話し合いながら、日々患者様の人生と向き合っています。

3. 緩和ケアチーム

当センターでは2013年11月から緩和ケアチームを立ち上げています。開始した当初と比較して主要メンバーは下記のように多職種にわたり、認定看護師も3名となりました。これを機に、チームリーダーはこのまま医師の担当としたままで、各職種内コンサルテーション(看看コンサルテーションなど)の充実をまずは図り、その上でチームとしての活動に繋げていこうと考えています。

- 1) 認定看護師: CN (certified Nurse)
- 2) 患者支援室
- 3) 薬剤部
- 4) リハビリテーション部
- 5) 栄養科
- 5) 心理部

4. 緩和ケアに関する研修会

当センターでは毎年開催していますが、今年度も2022年1月27日（木）に、緩和ケアに関する研修会（「第106回熊本緩和ケアカンファレンス」）を開催しました。新型コロナ第6波のため昨年のハイブリッド形式から更に感染対策を強化すべく完全オンライン開催としました。院内外から合わせて70余名の方にご参加いただきました。まずはこの場を借りて御礼申し上げます。

1) 精神疾患の患者の終末期看護

双極性感情障害を合併したがん終末期患者の事例を取り上げました。看護を通して考えたことを宮本緩和ケア認定看護師が、患者支援室がサポートしたことをわたしが（諸事情で急遽代役）、それぞれ発表しました。精神疾患を持つ患者様を支える関わり方・精神疾患を持つご家族のケア・かかりつけの精神科病院及びリエゾンナースとの連携・精神疾患を持つ患者へのがんの告知や治療の選択／早期からの家族を含めた支援・精神看護とがん看護の連携／情報交換／相談できる体制づくりの検討について考察がなされました。精神疾患だけでなく、高齢化社会において認知症を合併した患者様が多くなる中で、その人らしく生活し、その人にとって最善の選択ができるよう、患者様そしてご家族を支援していくことが、Take Home Message となりました。

皆様からのアンケートでもたくさんのご意見を頂きました。それを元に、「事例提示を中心としてより関連性のある研修会」を来年度以降も企画しますので、次回もまた皆様のご参加のほどよろしく願い申し上げます。

2) オンライン会議について

発表者が発表に専念できること、次に配信される映像・音声が高質であること、の2点に取り組みました。

発表者が「画面共有」や「音声の調整」などで悪戦苦闘し発表そのものに専念できないことが時々あります。スライドショーがうまく画面共有できないだけで発表者は焦るものです。やっと慣れたと思っても次の発表の頃には Zoom をはじめとした配信技術そのものが仕様変更していて振り出しに戻ります。ですので、発表者はこれまで通りパソコンで自分のスライドを操作してマイクで発表するだけとし、配信用パソコンは別に準備して裏方がさまざまな操作をする、としました。

オンライン会議用のマイクやヘッドセットより、会場で従来から使うマイクの方が音質安定しています。また、オンライン会議ではハウリングが生じや

すいので、会場、配信、それぞれの音量調整が制限されがちです。ですので「マイナスワン」ができるミキサーを用いることでこの問題点を解決しました。上記2点のために用いた機材は、「ATEM Mini スイッチャー」と「Soundcraft Notepad-12FX ミキサー」です。オンライン会議の技術面でご興味のある方はお知らせいただけますと微力ですが助言はできると思います。

今後の課題としての宿題は、何よりもディスカッションが通常の会議以上に難しい点です。発表者はまるで壁に向かって淡々と発表し、発表が終わっても壁を見つめたままで質問を待つ、という感覚に陥り、視聴者は興味はあるが一体どんな人たちが何人聞いているのか分からないところで質問を発するのは気が引ける、という状況になります。かと言って、事前に何人かに質問してもらうようお願いしたり、司会者が発表者に質問する、というのでも、「やらせ」な感じがしてどうしてもできません。約半数の方がスマートフォンで視聴していますので、チャットでの質問も難しいように思います。今後も他のオンライン会議に参加しながら糸口を見つけていければと考えています。

怪我の功名で、コロナ禍でオンライン会議が発展してきました。コロナ禍がおさまっても、どこにいても（市外や県外からでも）参加できる、というオンライン会議の長所を考えると、少なくともハイブリッド会議は残ると思います。コロナ禍がいつおさまるのかは不透明ですが、それに向けてノウハウを蓄積していこうと考えています。

5. 最後に

わたしの趣味のような話しが中心になりかけて申し訳ございませんでした。わたしも毎年確実に年を重ねていっていますが、できるだけ柔軟性を保って、患者様・ご家族・先生方のお役に立てればと考えています。今後ともご指導をお願い申し上げますとともに、「がんの診断・治療・緩和ケア病棟が一箇所提供できる在宅や介護サービスとも連携できる病院」として、先生方の大切なかかりつけの患者様にご病気にかかれた時には当センターへのご紹介どうぞよろしく願い申し上げます。



ATEM Mini スイッチャー



Soundcraft Notepad-12FX ミキサー

栄養サポート（NST）研修会について

栄養管理・褥瘡対策委員会 ^{ますずみ} 増住 ^{ともこ} 智子

当院のNST活動が始まってから約15年が経過しようとしています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、そして当院ではリハビリ部門も中心メンバーとして、栄養管理を軸とした様々なサポートを行っております。全科を対象としていますが、外科、呼吸器内科が多く、循環器内科、消化器内科が続きます。

NST主催の研修会は毎年行っておりますが、昨年よりリアルからオンライン開催に変更しました。コロナ禍で唯一喜ばしいのは、著明な専門家の無料オンラインセミナーが企業主催で数多く開催されていることで、研修会に利用させていただいています。

昨今は嚥下障害絡みの栄養サポートが目立ってきており、嚥下調整食の提供も年々増えている印

象があります。その中でとろみ調整については2013年に日本摂食・嚥下リハビリテーション学会よりとろみの3段階分類が示されたあとも様々な疑問・相談が多く、病棟スタッフとの共通理解が必要と感じておりました。そこで、今年度の研修会はとろみの科学的検証に基づいた知識習得にしました。セミナーは粘度計を用いた実験形式で、すべての液体にすべて同じようにとろみがかからない事を学びました。受講後のアンケートでは90%以上の方がほぼ理解できたとの回答でした。

コロナ終息のゴールが見えず不安定な状況ではありますが、感染対策に注意しながら栄養サポート、栄養情報の提供活動を続けていきたいと思えます。

退任挨拶

皮膚科 ^{しまだ} 島田 ^{かなこ} 佳奈子



2020年4月より木曜日の皮膚科外来を担当させていただきました。地域医療センターでの勤務は2回目ではありましたが不慣れな点も多く、各科の先生方、外来や病棟のスタッフの皆様には大変お世話になりました。各科の先生方、当日の急な相談にも快く対応いただき、ありがとうございました。開業医の先生方、ご紹介にスムーズに対応できないこともあり大変ご迷惑をおかけいた

しました。皮膚科入局当時のオーブンであった市原先生が皮膚科医長を務められる中で勤務できたことはとても幸せでした。週に1回の勤務ではありましたが学びの多い時間でした。

暫く出産や育児のため休職いたしますがまた臨床の場に復帰しました場合にはどこかで皆様のお目にかかることもあるかと存じます。その際にはどうぞ宜しくお願いいたします。

最後にはなりましたが熊本地域医療センターの今後益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2022年3月28日(月) 19:00~20:00

形式／オンライン方式 (ZOOM)

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

(※1) 申し込みアドレス



※COVID-19拡大に伴い、当面の間院内会場での直接参加を中止とし、オンラインのみでの聴講とさせていただきます。状況が改善次第、院内会場への参加を再開予定です。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

『肝細胞癌、肺転移、門脈腫瘍栓に対して、レンパチニブが奏功し、Conversion Surgeryを行った一例』

外科 上村 紀雄 医師

②特別講義

『血管造影室更新のお知らせ 及び当院で行っている血管造影検査・治療について』

CC 9: 医療情報

循環器内科 平田 快絢 医師

「友達の輪～Relayトーク 第16弾」

たかき いさお
たかき消化器内科 高木 功



天守閣と同じ太さの七寸柱を背にし、自作スピーカーと撮影

東区で、たかき消化器内科を開業している、高木功です。熊本大学を卒業後、茅ヶ崎徳洲会総合病院、熊本赤十字病院に勤務後、1998年に普通の実家の隣に開業しました。健軍桜木眼科からのバトタッチで原稿書いています。

浮き沈みはあるものの医師会病院などのささえもあり、何とか今までやってこられました。浮き沈み、と書きましたがほとんど沈んでいることが多かった気がしますが、この数年は大変でした。

コロナ危機のさなかに職員の退職が重なったのです。寿退職だったり進学だったりなので当人にとっては良いことではあるのですが、現場に慣れてしまった人が次々となくなっていきました。

そこで、2020年の2月から全国の医療現場が変わっていくように、自院の体制も少しずつ変えていきました。

まず、定期受診の患者さんをお願いして、体調に変化がなければ午前の診療としました。幸い受診者数が少なくなった時に始めたので、少しずつ浸透していきました。

夕方に定期通院するサラリーマンには、当日の電話で受診時間を決めて発熱の人と重ならないようにしました。

次に、発熱の患者さんに対応するため、午後はすべて予約外来としました。玄関には、医師会から配布された発熱患者向けの赤いポスターを貼りました。

受診前の電話連絡のお願い、などが書かれています。理論的には、これで時間的なゾーニングが完成です。

ただし、実際には、受付でいきなり、のどが痛いですが、とか、診察室に入ってから、数日前から咳が出ます、という方が続出しました。発熱がなければコロナ感染症と自分の風邪症状を結びつけることは、一般の人には難しいことのように思いました。

発熱のない風邪症状の患者さんを12時半頃に診察し、午前の診療が午後になり、院長の昼休み時間が無くなっているというのが現状です。

その後2020年の夏から秋にかけて、それまで就職活動を自粛していた看護師さんたちを採用することができて、やっとスタッフがそろってきました。それに伴い2021年5月からのコロナワクチン接種事業も何とか軌道に乗りました。

この紙面が読まれる頃には2022年2月からの追加接種に励んでいる予定です。

閑話休題、昨年秋に散歩していたら、素敵な木造平屋建てのクリニックを見つけたので見学させてもらいました。私は既存の住宅を増築して新規開業したので木造設計は大好きです。

医院建築物は採光率が床面積の10分の1で良いとか、当院は通りに面している部分が広いので角地特例（かどちとくれい）が適用されるとか、自分で調べて、市役所の建築指導課に出向いて確認しました。

担当の職員にアドバイスしていただき、このあとはちゃんとプロに頼んでね、と言われ、住宅専門の建築会社に依頼して建ててもらいました。

今回は、その素敵な木造建設、まえはらクリニックの前原優一先生をお願いしました。内覧会に内科医が来院して、建物のことばかり話して、さらにこの原稿をお願いされてびっくりされていることと思いますが、よろしくお願ひします。

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y コロナ禍での開催には賛否はありますが、スポーツイベントはやはり感動と勇気を与えてくれますね。さて、友達の輪～Relayトーク第16弾は、たかき消化器内科の高木先生に書いていただきました。大変な時期に医師会病院がお役に立ったということ。ありがとうございました。

K まん防期間中のため、ストレスたまり放題の我が家の4姉弟。親の目を盗んで、娘が音頭をとり、1,500円の会費制でジャンクフードとコンビニスイーツで自宅会食。その頃、ポテトはSサイズのみ。動画が、家族のグループラインに配信。なんとも愛おしそうに食べていました。

H 早いものでもう年度末ですね。センターだより制作担当になり2年が経過しました。至らない点もあったかとは思いますが、1年間本誌をご愛読いただきありがとうございました。次年度も頑張りますので、楽しみにお待ちください。